

インターナショナル ビーズビエンナーレひろしま 公募展 2015 審査員からのコメント

渡辺 マリ / コスチュームジュエリー研究家

広島で開催されるインターナショナルビーズビエンナーレならではのテーマ「美と愛と平和」、今年の大賞はボッティチェリ絵画にインスパイアされたという、ヨーロッパジャパニーズ、つまり日本人が消化吸収した完璧に近いコスチュームジュエリーといえましょう。ボッティチェリが追求した美と愛そして平和のイメージを日本人好みの上品な色彩と繊細なビーズワークで表現し、控え目ながらも大きくバランスをくずしアсимトリーに仕上げ、身につけた時の美しさは抜群です。これはコスチュームジュエリーの真髄だと思います。大変中身の濃いコンテストで高品質の作品が揃いインターナショナルの名に恥じないものになりました。

渡辺マリ賞とさせていただいた作品は、女性ならきっと身につけたくなる、桜を想わせる春色シードビーズの間にイエロービーズを入れる事でピンクの色らしさを演出しています。立体のまとまりもよく、つけた人をより魅力的に見せられるでしょう。

君島 龍輝 / 伝統的工芸品産地プロデューサー

アートとは美のコミュニケーションを目指す活動であり、時代や地域によって評価や存在そのものが違って来る。ゆえにアートとは感性であり人それぞれなのである。さて本展のビーズビエンナーレは限定された素材とテーマで制作する。そこに面白さが有り、チャレンジ精神が湧き上がる。アーティストの腕の見せ所だろうか。またビーズという素材にアートマテリアルの可能性が期待できるところが良い。今回審査員として感じたことは出展者のビーズへの情熱である。技術もさることながら美への追及を忘れていない。オリジナル性の高い作品と著名な名画や工芸品をリファレンスしてなお独自の表現をした作品の数々、どちらも見事である。まさしくビーズアートの頂点と言っても過言ではない。

伊藤 琢磨 / 日本生涯学習協議会 理事長

今回の作品レベルは、前回に比べて非常に高いと評価しています。アート部門は見ごたえのある作品が多く、出展者の制作意欲に感銘を受けました。コスチュームジュエリー部門は、シードビーズの特性をいかした作品が目立ちました。近年のビーズコンクールになかった多様性を感じました。また子供たちの作品も展示されています。大人には見られないアイデアがあります。ぜひともご来場ください。

水野 久美子 / 日本生涯学習協議会 専門委員

たくさんのコンクールを見てきましたが、作品のレベルがいつになく全体的に高いと感じました。私が審査で意識したのは、シードビーズをどのように生かしているか。全面に埋め尽くしたもの、脇役として隠れたところでメインを支えているものなど、いろいろな使い方がされていました。中でも目に留まったのは、小さなシードビーズで立体感を見事に表現している作品でした。大賞作品は、色の調和とパーツのバランスが抜群でした。特別賞のゴリラは、その美しさに見とれてしまいました。シードビーズの可能性を気づかせてくれた作品達とその作者の皆さんに心から拍手を送ります。

山仲 巖 / トーホー株式会社 代表取締役

第二回目となる国際シードビーズビエンナーレ大賞展。今回からコスチュームジュエリー部門も新設され、応募作品、とてもレベルの高い作品の出品ばかりでした。どの作品も、シードビーズという素材の可能性を大いに広げてくれるものでした。一様に穴が開いているガラスの玉を、様々な技法で表現され、同じ素材を使ってこうも個性が出るのかと感心し、また、作家さんひとりひとりがどんな思いで作っているのか想像するだけで、ワクワクしました。

《特別コメント》

山仲 元 / 日本シードビーズ協会 事務局長

第二回は世界レベルのコンテストにするという思いで国際シードビーズビエンナーレとしました。審査のなかでは、思いの通り日本のビーズアートの世界に向かって発信するべきものであると実感しました。我々ものづくり大国「日本」はビーズワークを含め多くの手工芸技法を体系化して学ぶことができる環境にあります。作品からは作家さまの「高い感性」「繊細な技術力」を感じました。悲しい事件やテロが多いこの時代に誰もが願う「美と愛と平和に満ち溢れた世界」をご来場頂いた方々に感じていただけると確信しています。